

実践のまとめ（第6学年 社会科）

阿賀野市立水原小学校 教諭 伊藤 洸

1 研究テーマ

**資料を読み取り、比較したり関連付けたりする活動を通して思考を深める児童の育成
～歴史学習における児童の意思決定の場の設定と対話を通して～**

2 研究テーマについて

（1）テーマ設定の意図

学習指導要領では、「社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。」ことが示されている。歴史学習において、事象の意味を多角的に捉えるためには、事象に関する資料の読み取りが必須である。また、その資料も、児童が事象と関連付けて考えられるような内容になっている必要があり、教師による資料の精選や提示方法の工夫が求められる。これまでの自身の実践を振り返ると、学習内容に関連し、児童が関心をもてそうな資料を精選したり提示を工夫したりしてきた。また、対話的活動を取り入れ、協働的な学びになるように工夫をしてきた。しかし、資料においては提示の工夫は行ったものの、読み取り方の指導をしておらず、児童が資料と出会った際、教師が期待していた情報を読み取れないことがあった。また、対話的活動においては、自分の考えを発表するだけに留まり、他者の考えを基に再考する場面が十分ではなかった。特に歴史学習においては、児童自身が自分の生活との関連が見えにくいため、児童が何かを選択したり判断したりする場面が少なかった。これは、単元の学習の中で、児童が自らの意思で選択・判断する場が十分に設定されていなかったためと考える。

資料の読み取り方を指導するとともに、児童が意思決定を迫られる課題を設定することで、主体的な学びが生まれ、解決のために資料を比較・関連付けたり他者と対話する必要感が生まれたりし、児童の思考が深まると考える。

以上をふまえ、本研究課題を設定した。

（2）研究テーマに迫るために

① 資料活用の手立て

児童が資料を有効に活用するためには、資料の中から学習問題の解決に必要な情報を読み取る力が求められる。教科書や資料集にはたくさんの資料（図、写真、文章など）がある。それらの資料にはどのような情報があるのか、学習内容をより深めるためにはどのような情報がある資料を提示すればよいのか、教師が資料を吟味し、精選していく。また、児童に資料を示したときに、「何を」「どのように」読み取ったらよいのか、明確な視点を示し、その視点に沿って読み取っていくようにし、各種の資料から情報を数多く取り出せるようにする。

さらに、必要な情報を取り出すだけでなく、複数の資料を比較したり関連づけたりすることも、児童自ら学習を進める上で求められる力である。意図的に比較、関連付ける必要がある資料を提示していく。

② 児童の思考を深める手立て

児童の思考を深めるために、児童が意思決定できるような学習問題を、単元の中で追問題として設定する。「○○なのはどちらか」「○○すべきか、□□すべきか」のような二項対立の問題や、複数の選択肢から自分の考えに沿うものを選択する問題などを設定する。複数の事象のメリット・デメリットを比較したり、資料を関連付けたりすることで、自分の考えの根拠を明確にさせていく。また、個々に考えを持たせた後、全体で共有することで様々な考え方に触

れさせ、自分の考えを強化したり深めたりしていく。

(3) 研究テーマに関わる評価

以下の2点について、追問題に対する児童のまとめから評価する。

- 1 抽出児童を選出し、児童の記述内容から有効性を見取る。(質的評価)
- 2 学級児童全体の評価の総数から、教師の手立ての有効性を見取る。(量的評価)

3 単元と指導計画

(1) 単元名

幕府の政治と人々の暮らし (教育出版社)

(2) 単元の目標

- 江戸幕府の政治と人々の暮らしについて、遺跡や文化財、地図帳や年表などの各種の基礎的資料を用いて情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける活動を通して、武家諸法度や大名の配置、参勤交代や身分制度、鎖国政策に着目して比較したり関連づけたりする活動を通して、幕府が大名の支配体制を整え、身分制度によって武士中心の社会の仕組みを作ったり、キリスト教を禁じて貿易による利益を独占したりして幕府による支配を強めたことを理解する。
- 江戸幕府の政治が、徳川家の大名や武士を中心とした社会制度を整え全国の大名を従えたこと、武士中心の社会体制を構築するために身分制度を定め、人々の様々な制約や負担を負わせ支配したこと、キリスト教を国外から排除するために鎖国政策を進めたことなど、現代との類似点や相違点があることを説明したり、それらをもとに議論したりする力を身に付ける。
- 江戸幕府の政治について、主体的に学習問題を解決し、学習を通して歴史を学び意味を考える力や、日本の歴史や伝統を大切に国を愛する心情を養う。

(3) 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図帳や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、参勤交代や身分制度、鎖国などの幕府の政策について理解している。 ・調べたことを年表や図表にまとめ、武士による政治が安定したことを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制度について考え、表現している。 ・参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制度を関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸幕府の政治について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追及し、解決しようとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画 (全7時間、本時2/7時間)

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸幕府が260年続いたことや大名行列の想像図を読み取ったりして、江戸幕府の政策について学習問題をつくることできる。 		資料や想像図を比べて、その様子から、疑問を持ち、幕府の政策についてその要因を考え、表現している。 (思・判・表) 【ノート】

	学習問題：江戸幕府は、大名や武士、百姓などの人々を支配するためにどのようなことを行ったのか。		
2 (4) 本時	<ul style="list-style-type: none"> 大名の配置図や武家諸法度、参勤交代の制度を調べたり読み取ったりすることを通して、幕府が大名たちの力をそぎ落としたり、新たに力を付けさせたりしないような仕組みをつくり、大名を支配したことを捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎幕府は大名をどのように支配したのか ・大名の配置図や武家諸法度、参勤交代の制度を調べ、幕府がどのように全国を支配したかを考える。 	江戸幕府の政策から、大名支配の考え方やその仕組みを捉えている。 (知・技)【ノート】
	<ul style="list-style-type: none"> 百姓や町民の暮らしの様子や、百姓に出された法令を調べたり読み取ったりすることを通して、武士を中心とした身分制度が確立し、人々は決められた役割を負って暮らしていたことを捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎幕府は町人や百姓をどのように支配したのか ・百姓や町民の暮らしの様子や、百姓に出された法令を調べ、幕府がどのように人々を治めたかを考える。 	江戸幕府の武士以外の人々への政策から、百姓や町民に対する支配の仕組みを捉えている。 (知・技)【ノート】
	<ul style="list-style-type: none"> 鎖国が始まった経緯や内容を調べたり読み取ったりすることを通して、鎖国政策によって幕府が国内の支配を強め、貿易の利益を独占したことを捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎幕府が鎖国を行ったのはどうしてか ・鎖国が始まった経緯や内容を調べ、鎖国政策が国内に及ぼした影響を考える。 	鎖国の経緯などから、鎖国政策が幕府の支配を強めたことを理解している。 (知・技)【ノート】
	<ul style="list-style-type: none"> 鎖国下での外国との交流を調べたり読み取ったりすることを通して、鎖国をしている間、琉球や蝦夷地、挑戦などの近隣諸国と交流していたことを捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎鎖国中、幕府は外国と交流しなかったのか ・鎖国下での外国との交流を調べ、幕府がどの国や地域と交流をしていたかを考える。 	江戸幕府と外国との関係について理解している。 (知・技) 幕府の政策が人々の支配にどのような影響を与えたかを考え、表現している。 (思・判・表)【ノート】
	まとめ：江戸幕府が進めた支配体制によって、大名は力を削がれ、幕府に反乱できなくなった。また、武士中心の身分制度を作ることで、百姓や町民が武士を支えるような社会をつくった。さらに鎖国政策によって国内の支配を強めたことで、国内の政治を安定させた。		
3 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 幕府が進めた政策をランキング付けすることを通して、それぞれの政策の効果を比較、関連付けて考え、価値付けできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幕府が進めた政策をランキング付けし、その理由を考える。 	
	学習問題：江戸幕府の行った政策の中で人々を支配するのに効果的だった政策はなんだろうか。(ランキング付け)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・幕府が進めた政策をランキング付けしたものを学級内で対話活動することを通して 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランキング付けした政策とそのわけを交流する。 ・再度ランキング付けす 	幕府の政策についてランキング付けしその要因を考え、表現している。

	て、他者の視点を取り入れて再考し、自分の考えを強化したり深めたりすることができる。	る。 ・振り返りをする。	(思・判・表) 【ノート】
--	---	-----------------	---------------

4 単元と児童

(1) 単元について

本単元は、江戸幕府が安定的な政治を行うために様々な政策を行い、260年以上続く江戸幕府の基盤が整えられたことを捉える単元である。前述のように、資料の精選を行い、児童に様々な資料を読み取らせることを通して、政府が、大名や武士、百姓や町人などそれぞれの身分に応じた支配体制の仕組みを作ったり、鎖国などの対外政策を進めたりしたことを捉えさせる。また、児童が自分の考えをもちやすい学習問題を設定し、政府の政策を比較したり関連付けたりして、考えを深めるようにする。

(2) 児童の実態(男子14名、女子15名 計29名)

6学年になる際にクラス替えが行われた。学級全体が誰とでも関わる様子はあまり見られないが、ある程度の関わり合いはできる。QUによるアンケート調査を見ると、「学級の雰囲気」項目の結果は悪くはない。また、学習意欲はあまり高くなく、自分の考えをもったり、その理由を説明したりすることが苦手である。

5 本時の展開(令和7年10月21日実施)

(1) ねらい

大名の配置図や武家諸法度、参勤交代の制度を調べたり読み取ったりすることを通して、幕府が大名たちの力を弱めたり、新たに力を付けさせたりしないような仕組みをつくり、全国の大名を支配したことを捉えることができる。(知識・技能)

(2) 展開の構想

前時は、幕府の支配が長く続いた理由を探ることを学習問題に設定し、その理由を大名、町人・百姓、外国との関わりから探ることを確認した。

本時は、大名に対する政策を捉えていくために、大名の配置図、武家諸法度の内容の一部、参勤交代制度の内容の資料を提示する。それぞれの資料を読み取る過程で、幕府の狙いを考えさせていく。外様大名が江戸より離れた地に配置されたことや、参勤交代制度によって大名が領地と江戸を1年おきに行き来することが義務化されたことを関連付けたり、武家諸法度の内容を読み取ったりしながら、幕府の政策によって大名の財力や武力を奪い、支配を強めていったことを捉えさせる。

(3) 展開

時間(分)	学習活動	T:教師の働き掛け C:予想される児童(生徒)の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
導入	前時を振り返る 学習課題を押さえる	T:江戸幕府がどのように人々を支配していったのか、本時は大名について考えていくことを確認する。	◇事前に本時に関わる学習プリントを配付し、取り組ませしておく。
	学習課題:幕府は大名に対してどのような政策を行い、支配したのか		
展開	資料提示 資料読み取り	T:幕府が行った政策として、大名配置と武家諸法度の資料を提示し、資料の読み取りを行わせる。	○ロイロノートを用いて、大名配置図、武家諸法度の一部を示した資料を送る。

	課題解決 (グループ・全体)	<p>C：外様大名が江戸より離れたところに配置されている。</p> <p>C：大名は、領地と江戸に交代で住んでいた。</p> <p>C：大名同士の結婚は幕府の許可がある。</p> <p>T：幕府の政策の狙いを考える。</p> <p>C：外様大名はいつ反乱するかわからないから遠くに配置した。</p> <p>C：大名同士の結婚を認めると力を強めてしまう。</p> <p>C：参勤交代で大名にお金を使わせたかった。</p> <p>C：江戸城の修理や堤防づくりもお金を使わせるためだ。</p>	<p>○読み取ったことをノートに書かせる。</p> <p>○参勤交代は全て大名の自己負担だったことを示す。</p> <p>○手伝い普請の内容を伝える</p> <p>□江戸幕府の政策から、大名支配の考え方やその仕組みを捉えている。【ノート】</p>
終末	本時のまとめ	T：幕府がどのように大名を支配したかまとめる。	
	まとめ：幕府は大名の配置を変えたり武家諸法度などの決まりを作ったりして、全国の大名の力を弱らせることで支配した。		
	振り返り	<p>T：学習を通して分かったこと、江戸幕府の大名に対する政策は、全国の支配を100%としたときに何%かを書かせる。</p> <p>C：幕府は全国の大名の力を弱らせることを狙ったことが分かった。</p>	

(4) 評価

- ① 参勤交代、大名配置、武家諸法度がどのような政策か捉えている。 (知識・技能)
- ② 参勤交代、大名配置、武家諸法度が、大名の支配にどのような効果があったか考えている。 (思考・判断・表現)

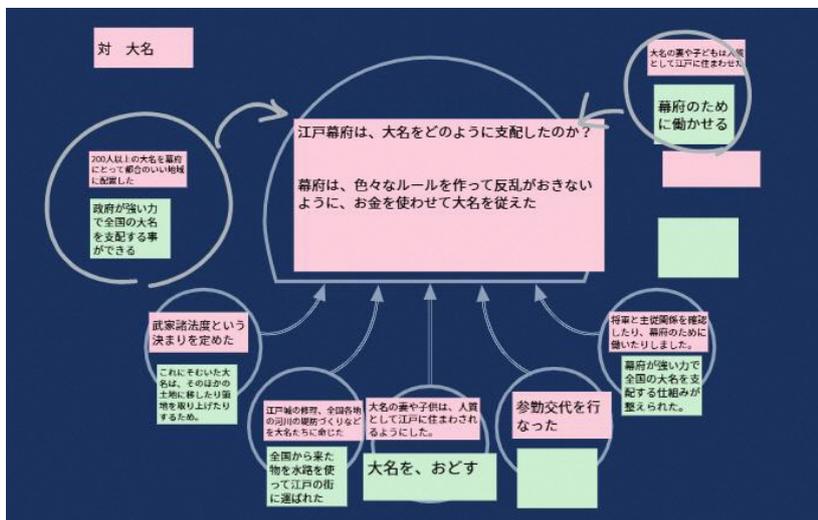
6 実践を振り返って

(1) 授業の実際

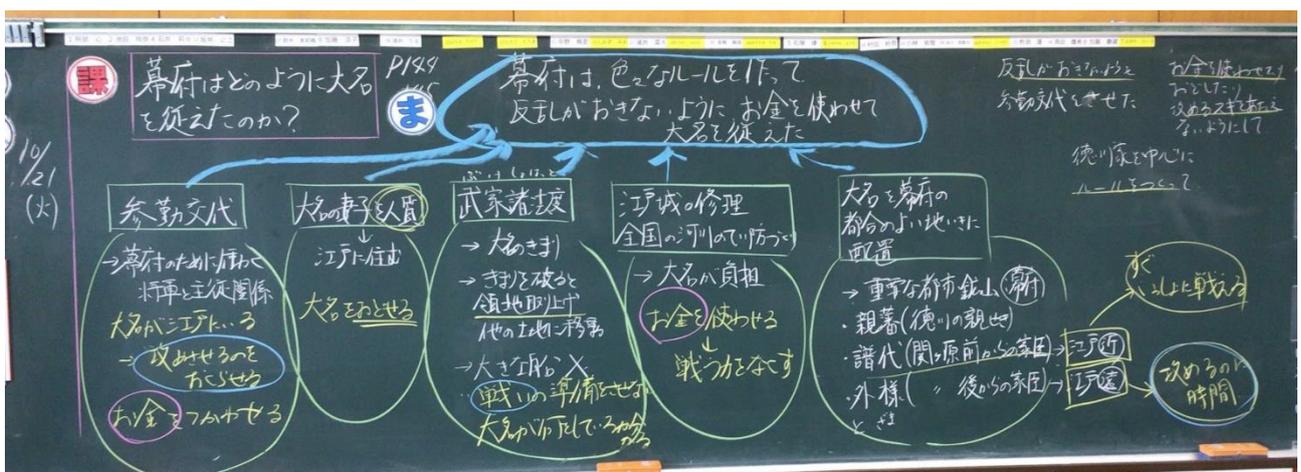
①【資料活用の手立て】について

本時の前半では、児童を4つのグループに分け、幕府が大名に行った政策についてまとめさせた。児童には教科書や資料集、教師が収集した資料をロイロノートで配付し、使用させた。資料は、江戸幕府の政策内容が理解できるもの、政策の狙いが予想できるものを中心に精選した。まとめる際にはロイロノートを活用した。資料から読み取ったり考えたりすることを、「政策の概要」と「政策の狙い」の2点に焦点化し、それぞれ赤と緑のテキストに分けて整理させた。整理する際には、ロイロノート内の思考ツール「クラゲチャート」を使用し、資料から読み取った内容を比較したり関連付けたりできるようにした。教師が資料を配付すると、児童はグループで協力し、2つの視点について資料から読み取り、まとめていた。狙いについては政策内容を基に話し合い、記述していた(資料1)。

本時の後半では、各グループでまとめたことを共有し、幕府が大名をどのように支配したのかを考えた。グループごとに話し合った後、全体で共有し、幕府の狙いを踏まえた本時のまとめを児童の言葉を基に作成した(資料2)。複数の資料から読み取った情報を比較、関連付けて考え、まとめることができた。



【資料1：ロイロノートに児童がまとめたもの】

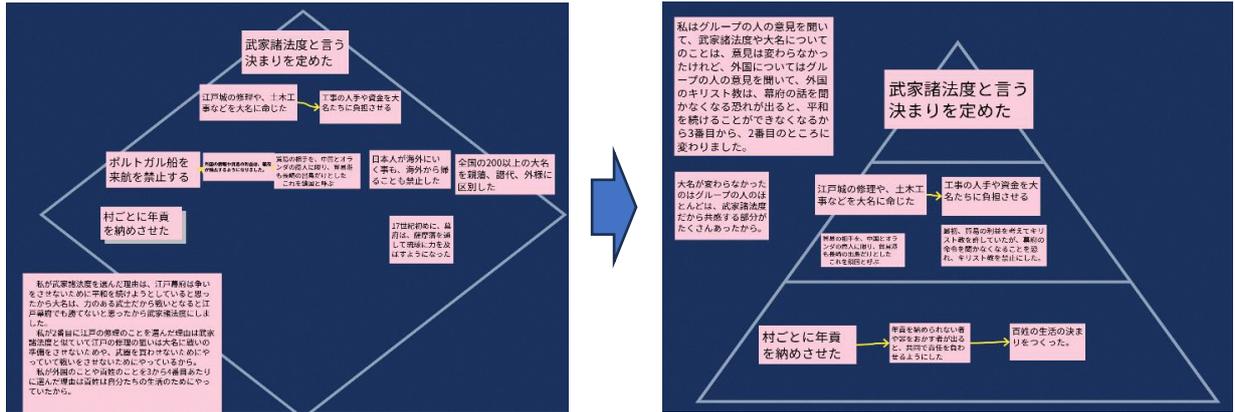


【資料2：本時の板書】

②【児童の思考を深める手立て】について

単元の始めに設定した学習問題についてのまとめを行った後、追問題として「江戸幕府の行った取組について、どの取組に力を入れて取り組むか」を設定した。児童は、これまでの学習から

B 児の記述内容は次のとおりである。



B 児は、全体共有前後で変わることなく、武家諸法度を一番に挙げていた。根拠として「江戸幕府は争いをさせないために平和を続けようとしていると思った」と述べており、グループ間での共有や全体共有で同様の考えが見られたことから、考えが強化されたと考える。一方、外国への政策は、キリスト教禁止について、グループ共有の際の他の児童の考えを受けてランキング付けが変化している。本実践における手立てによって、児童が考えを強化したり変容させたりして思考を深めていると考える。

- ② 学級全体の評価の総数から
追問題における評価は次のように行った。

評価	記述内容
A	ランキング付けの根拠を、学習で得た知識や情報を複数挙げて記述している。
B	ランキング付けの根拠を、学習で得た知識や情報を基に記述している。
C	B に満たないもの

評価の総数は A 評価が 10 人、B 評価が 16 人、C 評価が 0 人だった(対象児童 29 名、提出 26 名、未提出 3 名)。B 評価が多かった要因として、追課題における教師の視点や書き方の指導が口頭によるものになってしまい、児童に正しく伝わっていなかったことが挙げられる。

(3) 今後の課題

① 資料の精選

単元構想を基に、教科書や資料集、自身で精選した資料を活用したが、単元の狙いに迫るためには、やはり資料が不足していた。児童がより歴史的事象の具体的に触れるような資料を示すことができれば、過去の人々の考えに思いを巡らせながら歴史を捉えることができるのではないかと考える。

② 多角的な視点のある授業づくり

本実践では、単元を通して幕府の視点で学習を進めた。しかし小学校社会科における「多角的な視点で見る」点においては、幕府以外の立場の視点も必要であったと考える。どの歴史単元でも、多角的な視点にたって思考できる授業づくりを行いたい。

③ 歴史単元における追問題の吟味と設定のタイミング

本実践では児童の思考を深める手立てとして、単元始めの学習問題とは別に、思考を促す追問題として、「江戸幕府の行った取組について、どの取組に力を入れて取り組むか」を設定した。児童は学習した江戸幕府の政策と狙いを比較しながらランキング付けを行い、他者と考えを共有することを通してさらに思考し、自身の考えを強化したり変容させたりしていた。児童の思考を深めるための手立てとして歴史単元における追問題は有効だと考えるが、課題内容については学習内容を網羅しているか、多角的に考えられるか、児童に示す文言は曖昧ではないか、など吟味が必要だと感じた。また、追求課題をどのタイミングで出すのかも検討が必要だと感じた。本実践では知識を学習した後での設定だったが、単元始めからがよいのか、単元全

体を通して追問題に触れるようにしていくのか、こちらも吟味していく必要がある。

④ 個別最適な学びと協働的な学びの場の設定の在り方

学習課題の解決に迫るために、本実践中はグループによる協働学習を中心に行った。これは学級全体の学力や個々の学力差を踏まえての学習形態だった。しかし、学習問題に対する追求場面において個人で学習する時間がなく、また一斉学習の形であったため、今求められている、「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」については不十分だった。歴史単元において何を個の学びの場とし、何を協働的な学びの場とするのか、検討していく必要がある。

7 参考文献

- ・文部科学省，小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編，2018
- ・澤井陽介・加藤寿朗，見方・考え方（社会科編），東洋館出版，2019